

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(柔道整復師科 午前コース 3年制)

2026年度入学生カリキュラム(1年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	スポーツトレーナー基礎1	4	○	4			
講義	総合基礎	1	○	1			
講義	キャリアデザイン講座	2	○	2			
講義	解剖学1	4	○	4	☆	4	
講義	生理学1	4					
講義	生理学2	2					
講義	人体構造基礎1	2	○	2			
講義	高齢者・競技者の生理的特徴	2					
実技	柔道1	2	○	2			
講義	衛生学・公衆衛生学	4					
講義	柔道整復学・基礎1	4	○	4			
講義	柔道整復学・基礎2	4	○	4			
講義	柔道整復学・基礎3	4	○	4			
講義	外傷の保存療法	1	○	1			
演習	柔道整復演習1	1	○	1			
講義	物理療法機器の取り扱い	1	○	1			
実技	柔道整復実技・基礎1	2	○	2			
実技	柔道整復実技・基礎2	2	○	2			
実技	臨床前施術試験等	1	○	1			
実習	臨床実習1	1	○	1			
総授業時数		48		36		4	
卒業に必要な授業時数		147					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース 授業科目名 解剖学1	学年	1	開講 区分	前期	担当教員 吉永 龍大			
	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
【授業の学習内容と心構え】(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院・整形外科で勤務経験のある専科教員による運動器の解剖・生理学について講義形式で授業を行う								
【到達目標】 柔道整復師の業務に特に関連性の高い運動器(骨・筋・関節)についての解剖学・生理学について学び、柔道整復学の学習に必要な運動器の解剖学についての知識を習得することを目標とする。								
【使用教材、参考文献等】 解剖学(医歯薬出版) 生理学(南江堂)				【準備学習・時間外学習】				
回	【授業概要】			到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 骨格系(解剖学)総論			解剖学・医学用語について理解する				
2	骨格系総論(解剖学) 骨について			骨の基本的構造について理解し説明ができる				
3	骨格系総論(解剖学) 骨の連結 各論 脊柱について			脊柱の構造を理解し説明できる				
4	骨格系各論(解剖学) 胸郭の骨(胸骨、肋骨)について			胸郭の骨の構造について理解し説明できる				
5	骨格系各論(解剖学) 上肢帯の骨(肩甲骨、鎖骨)について			上肢帯の骨の構造について理解し説明できる				
6	骨格系各論(解剖学) 自由上肢骨(上腕骨、橈骨・尺骨)について			自由上肢骨の構造について理解し説明できる				
7	骨格系各論(解剖学) 手部の骨、上肢の関節について			手部の骨と上肢の関節の構造について理解し説明できる				
8	骨格系各論(解剖学) 下肢帯の骨(寛骨)について			下肢帯の骨の構造について理解し説明できる				
9	骨格系各論(解剖学) 自由下肢骨(大腿骨、脛骨、腓骨)について			自由下肢骨の構造について理解し説明できる				
10	骨格系各論(解剖学) 足部の骨について			足部の骨の構造について理解し説明できる				
11	骨格系各論(解剖学) 下肢の関節について			下肢の関節の構造について理解し説明できる				
12	骨格系各論(解剖学) 頭蓋の骨について			頭蓋の骨の構造について理解し説明できる				
13	骨格系各論(解剖学) 頭蓋の骨について			頭蓋の骨の構造について理解し説明できる				
14	骨の生理(生理学P133~138)			骨の生理学について理解し説明できる				
15	期末試験			骨の解剖・生理学について理解度を測る				
【評価について】 基本的に毎授業確認テストを行い、期末試験との合計で評価する。 確認テスト50点/期末試験50点の合計100点で評価を行う。				【特記事項】				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名 解剖学1	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
	<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>接骨院・整形外科で勤務経験のある専科教員による運動器の解剖・生理学について講義形式で授業を行う</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>柔道整復師の業務に特に関連性の高い運動器(骨・筋・関節)についての解剖学・生理学について学び、柔道整復師の学習に必要な運動器の解剖学についての知識を習得することを目標とする。</p>								
<p>[使用教材、参考文献等]</p> <p>解剖学(医歯薬出版) 生理学(南江堂)</p>				<p>[準備学習・時間外学習]</p>				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	筋系(解剖学)総論			筋について基本的構造を理解する。				
2	筋系各論(解剖学) 頭部の筋、頸部の筋			頭部・頸部の筋の構造について理解し説明できる				
3	筋系各論(解剖学) 胸部の筋、腹部の筋			胸部・腹部の筋の構造について理解し説明できる				
4	筋系各論(解剖学) 背部の筋			背部の筋の構造について理解し説明できる				
5	筋系各論(解剖学) 上肢の筋			上腕部の筋の構造について理解し説明できる				
6	筋系各論(解剖学) 前腕の筋			前腕の筋の構造について理解し説明できる				
7	筋系各論(解剖学) 前腕の筋			前腕の筋の構造について理解し説明できる				
8	筋系各論(解剖学) 手部の筋			手部の筋の構造について理解し説明できる				
9	筋系各論(解剖学) 下肢帯の筋(内寛骨筋、外寛骨筋)			骨盤の筋の構造について理解し説明できる				
10	筋系各論(解剖学) 大腿の筋			大腿部の筋の構造について理解し説明できる				
11	筋系各論 大腿の筋			大腿部の筋の構造について理解し説明できる				
12	筋系各論(解剖学) 下腿の筋			下腿の筋の構造について理解し説明できる				
13	筋系各論(解剖学) 足部の筋			足部の筋の構造について理解し説明できる				
14	筋の生理学(生理学P12~21)			筋の生理学について理解し説明できる				
15	期末試験			筋の解剖・生理学について理解度を測る				
<p>[評価について]</p> <p>基本的に毎授業確認テストを行い、期末試験との合計で評価する。 確認テスト50点/期末試験50点の合計100点で評価を行う。</p>				<p>[特記事項]</p>				

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(柔道整復師科 午前・午後コース 3年制)

2025年度入学生カリキュラム(2年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	生物学	4					
講義	スポーツトレーナー基礎2	2					
講義	栄養学	1					
講義	解剖学2	4					
講義	人体構造基礎2	2	○	2			
講義	運動学	4					
講義	病理学概論	4					
講義	一般臨床医学	4					
講義	外科学概論	2	○	4			
講義	整形外科学	4					
講義	リハビリテーション医学	2					
講義	柔道整復学・臨床1	4	○	4	☆	4	
講義	柔道整復学・臨床2	4	○	4			
講義	柔道整復学・臨床3	4	○	4			
講義	柔道整復学・総合4	4	○	4			
演習	柔道整復演習2	1	○	1			
実技	柔道整復実技・臨床1	2	○	2			
実技	柔道整復実技Ⅲ	2	○	2			
実技	高齢者・競技者の外傷予防	2	○	2			
実習	臨床実習2	2	○	3			
総授業時数		58		32		4	
卒業に必要な授業時数		145					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名	必修・選択	必修	授業形態	講義	判治	由弘	
柔道整復学・臨床1					時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復術の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識および治療法を、人体構造の基礎である筋骨格系をベースに授業を行なう。作図と3D映像を交え、立体的に把握できるような空間認識能力を培い、実際の人体内部を理解できる授業とする。臨床での経験を活かし、実際の治療法に関する内容まで到達することを目標とする。

[到達目標]

手関節・手指部の脱臼、頭部・体幹の骨折と軟損の基本的知識を説明できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

柔道整復学 理論編 改訂第7版 南江堂

[準備学習・時間外学習]

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	手関節・手指部の脱臼(1)	遠位橈尺関節脱臼および橈骨手根関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
2	手関節・手指部の脱臼(2)	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
3	手関節・手指部の脱臼(3)	CM関節脱臼および、第1MP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
4	手関節・手指部の脱臼(4)	第2～5MP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
5	手関節・手指部の脱臼(5)	PIP関節脱臼およびDIP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
6	頭部・顔面骨折(1)	頭部骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
7	頭部・顔面骨折(2)	顔面骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
8	中間試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	脊椎骨折(1)	環軸椎系骨折、椎体系骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
10	脊椎骨折(2)	脊椎水平骨折、突起系骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
11	頭部・体幹軟損(1)	寝違え、むち打ち損傷の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
12	頭部・体幹軟損(2)	胸郭出口症候群の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
13	頭部・体幹軟損(3)	外傷性腕神経叢麻痺の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
14	頭部・体幹軟損(4)	神経絞扼障害の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

前期50点満点＋後期50点満点の100点満点とし、60点以上を合格とする。

[特記事項]

私語や居眠りなど、学業の妨げとなる行為は指導する。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース	学年 2	開講区分 後期	担当教員 判治由弘		
授業科目名 柔道整復学・臨床1	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(2)	授業回数 15	

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復術の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識および治療法を、人体構造の基礎である筋骨格系をベースに授業を行なう。作図と3D映像を交え、立体的に把握できるような空間認識能力を培い、実際の人体内部を理解できる授業とする。臨床での経験を活かし、実際の治療法に関する内容まで到達することを目標とする。

[到達目標]

手関節から手指の骨折・脱臼・軟部組織損傷の基本的知識を説明できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

柔道整復学 理論編 改訂第7版(南江堂)

[準備学習・時間外学習]

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	手関節部の軟部組織損傷1	三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病について理解する。
2	手関節部の軟部組織損傷2	末梢神経障害、キーンバック、マーデルング変形について理解する。
3	手・指部の機能解剖	機能解剖について理解する。
4	中手骨部の骨折1	骨頭部、頸部、骨幹部の骨折について理解する。
5	中手骨部の骨折2	第1、第5中手骨基部骨折について理解する。
6	手根中手関節脱臼	手根中手関節脱臼について理解する。
7	指骨の骨折1	基節骨骨折、中節骨骨折について理解する。
8	指骨の骨折2	末節骨骨折、マレットフィンガーについて理解する。
9	指骨の脱臼1	指骨の脱臼について理解する。
10	指骨の脱臼2	指骨のそれ以外の損傷について理解する。
11	手部、指部の軟部組織損傷1	靭帯損傷について理解する。
12	手部、指部の軟部組織損傷2	靭帯損傷について理解する。
13	手部、指部の軟部組織損傷3	ロッキングフィンガー、ばね指について理解する。
14	手部、指部の軟部組織損傷4	変性疾患、変形について理解する。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は単位認定試験100点で評価する。
評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(柔道整復師科 午前・午後コース 3年制)

2024年度入学生カリキュラム(3年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	解剖学Ⅲ	4					
講義	生理学Ⅲ	4					
講義	柔道整復術適応	2					
講義	関係法規	2	○	2	☆	2	
実技	柔道Ⅱ	1	○	1			
講義	臨床柔道整復学Ⅳ	4	○	4			
講義	臨床柔道整復学Ⅴ	4	○	4			
講義	臨床柔道整復学Ⅵ	4	○	4			
講義	臨床柔道整復学Ⅶ	4	○	4			
講義	柔道整復演習Ⅰ	2	○	2			
講義	柔道整復演習Ⅱ	2	○	2			
講義	柔道整復演習Ⅲ	1	○	1			
講義	柔道整復術適応の臨床的判定	2	○	2			
実技	柔道整復実技Ⅳ	2	○	2			
実技	柔道整復実技Ⅴ	2	○	2			
実技	柔道整復実技Ⅵ	2	○	2			
実技	柔道整復実技Ⅶ	2					
実習	臨床実習Ⅱ	1	○	1			
総授業時数		45		33		2	
卒業に必要な授業時数		145					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース	学年 3	開講区分 前期	担当教員 坪松真央・菊池知美			
授業科目名 関係法規	必修/ 選択	必修	授業形態 講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

接骨院の管理者として、保険請求を行っていた柔道整復師専科教員が、柔道整復師に関係の深い法規について講義形式で授業を行う。半期を通して、関係法規の領域を理解する。

[到達目標]

柔道整復師として具備していなければならない法律について理解し説明できるようになる。
柔道整復師を取り巻く環境、社会保障制度等を理解し、柔道整復師の業務・使命について理解を深める。

[使用教材、参考文献等]

関係法規(医師薬出版)

[準備学習・時間外学習]

法律について難しい言語が多くでてくるので予習して授業に望むこと。覚える事が多いので、言葉の内容を理解して暗記することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	I 序論	法の意義及び概略を理解する。
2	Ⅲ 関係法規 医師法、歯科医師法	医師法の概要が説明できる。 医師と柔道整復師との関係を説明できる。
3	Ⅱ 柔道整復師法とその関連内容 第1章 総則、第2章 免許	柔道整復師法の目的を理解する。 柔道整復師の定義が説明できる。
4	Ⅲ 関係法規 その他医療資格	様々な医療資格について説明できる。
5	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第3章 柔道整復師国家試験	国家試験の内容・実施方法を理解する。 国家試験受験資格について理解する。
6	Ⅲ 関係法規 医療法	医療法の概要について説明できる。 医療制度について理解する。
7	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第4章 業務	柔道整復師の業務を説明できる。 施術の制限について説明できる。
8	Ⅲ 関係法規 医療法	医療制度上柔道整復師の位置づけが説明できる。
9	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第5章 施術所	施術所の開設、構造設備基準、各種申請について理解し説明できる。
10	Ⅲ 関係法規 社会福祉関係法規	社会福祉法の概要が説明できる。 業務遂行に当たり社会福祉の意義が説明できる。
11	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第6章 雑則	柔道整復師に関連する罰則を理解し、詳細に説明できる。
12	Ⅲ 関係法規 社会保険関係法規	社会保険法について概要が説明できる。 業務遂行に当たり社会保険について説明ができる。
13	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第7章 罰則、指定登録機関及び指定試験機関	柔道整復師に関連する罰則と指定登録機関について理解し、詳細に説明できる。
14	Ⅲ 関係法規 その他の関係法規	様々な医療資格について説明できる。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。
確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。